

議事録

会議名	第17回ルネッサンス戦略推進協議会		
■ 概要			
日 時	令和7年12月4日(木) 14時00分～16時00分		
場 所	うきは市役所 3階 大会議室		
出席者 (敬称略)	会長	久留米大学名誉教授	狩野 啓子
	委員	九州経済産業局 地域経済部 地域経済課長 兼地方創生担当参事官	田口 賀徳
		九州地方整備局 企画部 環境調整官	伊藤 浩和
		九州農政局 福岡県拠点地方参事官	小林 康弘
		筑邦銀行 吉井支店長	原 大悟
		福岡銀行 吉井副支店長	徳永 智宏(代理)
		西日本新聞社 うきは支局長	後藤 潔貴
		うきは市商工会 事務局長	樋口 秀吉
		にじ農業協同組合 営農経済担当常務	木下 清実
		うきは観光みらいづくり公社 代表理事	久次 辰巳
		御幸地区自治協議会 事務局長	佐藤 裕子
		浮羽青年会議所 監事経験者	大塚 貴久子
		うきは市教育委員会 教育委員	平位 秀敏
		浮羽中学校 PTA 副会長	新川 陽子
欠席者 (敬称略)	子育て世代 (子ども子育て支援事業計画委員経験者)		藤川 由美
	女性グループ白壁レディース21		高橋 和子
	女性グループうきは翼の会		樋口 幸代
	副会長	うきは市 副市長	吉村 祥一
	委員	九州厚生局 地域包括ケア推進課長	増岡 寿
		福岡県 企画・地域振興部 市町村民振興局 政策支援課 地域政策監	安井 慶子
		日本政策銀行 九州支店 企画調査課長	森永 啓

■ 次第	
1 開会	事務局よりあいさつ
2 あいさつ	会長よりあいさつ
3 議事	(1) 第2期うきは市総合戦略の評価・検証について・・・資料1・2・3 (2) 第3期うきは市総合戦略の策定について・・・資料4・5 議事の詳細については後述
4 閉会	副会長よりあいさつ

■ 議事内容

(1) 第2期うきは市総合戦略の評価・検証について

事務局より資料1・2・3の説明。

【会長】

ここ数年、テレビでもうきは市のことを見かけるようになった印象がある。そういう点では魅力が発信されているのではないかと思うが、数値として見たときに達成できなかったものについても報告いただいている。

委員の皆さんから何か質問などはないか。

【委員】

資料3の1ページ目で消費額が倍近く上がっているが、物価高騰の影響はないのか。

【事務局】

物価高騰が押し上げている側面もあるかと思うが、物価高騰前も消費額は1,100円程度と増加傾向ではあった。また、観光満足度調査等を行う中で、回遊時間がかなり伸びていたと記憶している。そのため、うきは市内の滞在時間と消費額は以前に比べたらかなり増えているのではないかと思う。

【事務局】

補足させていただくと、以前のうきは市には、宿泊施設が筑後川温泉などの旅館とシティホテル1軒のみしかなかった。コロナ前から古民家宿がずいぶん増えて、令和5年だけでも10軒程度増えた。1泊するというところで、うきはにお金が落ちる機会が増えているのではないかと考えている。

【委員】

感想と意見を伝えさせていただきたい。他の委員も言っていた通り、観光消費額は上がっている。事務局からの説明があった通り、道の駅うきはや耳納の里直売所を中心に観光客も来ている。以前は道の駅に寄った後にいくところがないと言われていたが、カフェや飲食店ができ、宿泊して回遊できるようなエリアになって、福岡市から1時間のアクセスで、自然も温泉もある場所として注目されている結果が、この5年、10年で出てきていると思う。

片や、市民の所得、出生率、人口維持といった大きな問題はまだこれからだと思っている。そして、いろいろな指標が5年前に設定されていたが、5年経つとこのKPIで良かったのかというものが出てきていると思う。現状を改善、改革するのであれば、もっとハードルが高い、というと語弊があるかもしれないが、市民の生活がより豊かになるようなKPIを設定して、一丸となって取り組んでいかないといけないと思う。観光入込客数についても、190万人が220万人になったところで、実際よく分からぬ。

もう一つ、これはRESASの問題になるが、なかなか更新されないので今の経済の実態が分からない。

経済循環率が2018年の68%のまま止まっているが、100%を超えるような状況になると地域の方々も豊かさが実感できるのではないかと思う。RESASが更新されない限り、何を指標にするのかは非常に難しいと思うが、行政や関係各所と相談して、新しい指標を検討した方がいいのではないか。経済循環率が高くなないと地域経済は回っていかないので、代わりになる指標を見つけていただきたい。

【会長】

私も質問してよいか。

資料3の2ページにある転出超過数内訳のグラフについて、ずっと久留米市が1位で、2023年でいきなり福岡市が1位になっているが、その点はどう分析されているか。

【事務局】

直接的な要因かは分からないが、久留米市のような近隣自治体への転出が減少している一因として、奨学金返還支援補助金や子育て世帯へのマイホーム取得支援補助金などの内容を充実させることで、近隣自治体に比べて経済的なメリットが受けられるように手を打ってきた。そういった取り組みが、今ではハウスメーカー等にも伝わり、家を建てようと検討している層への周知にもつながっているという印象はあるが、今後分析を進めたい。

【会長】

全国的に福岡市への注目度は高い印象を受ける。もう一つ伺いたい。観光客について、外国人の観光客は非常に増えているのか。

【事務局】

コロナ明けの1年前が1番ピークだったと思う。韓国からの観光客が多い。1日50人来ていた月があった。同じ時期に日田市は500人、湯布院は5000人の韓国人観光客が来ていた。湯布院に行った観光客の10分の1が帰りに日田市に寄り、さらにその10分の1がうきはに寄ったのではないかと推測している。うきは市としては韓国からの観光客が一番多い。

【会長】

私自身、先ほど説明にあったデュアルライフに近い生活をしている。住まいは太宰府市だが、それと別に研究室の本を別府市の家に運び込んでいる。太宰府市は太宰府天満宮、別府は温泉、地獄めぐりを目的に非常に多くの観光客が来ている。そういう観光の目玉、うきはも立派な温泉地があるので、アピールの仕方によってはさらに観光客が来るのではと思う。

他にご意見、ご質問はないか。

【委員】

資料1の「広域的連携事業」について、事業の概要とメンバーを教えていただきたい。

【事務局】

企業パートナーという形で、関係人口等で連携協定を結んでいる。新たに連携を結んだ数ではなく、1年間の取り組み等の実数を記載している。

【事務局】

補足させていただくと、今まで久留米大学や、金融機関との広域連携協定を結んできたが、それとは別に企業パートナーという、交流人口でも定住人口でもない、その中間にある関係人口の企業版にあたるものを作った。F コープ様、福岡タクシー様等と連携して、うきはを売ってもらう、道の駅と連携して出荷してもらうといった取り組みを行っている。

【委員】

我々は地方創生や RESAS を担当しており、RESAS データを活用して地域課題を解決するアイデアコンテストを毎年開催しているが、地域の異業種でチームを組む、広域の市町村で連携するといった内容が上位になる傾向がある。これから時代、市町村単体でやることには限界があるのでないかと思うので、こういった連携が大事になってくる。そのため、この指標が大事だと思ったので、質問させていただいた。今取り組まれている方針は素晴らしいので、50 件という目標は高すぎるのではないかとも思うが、超えていくことを期待しております。

【会長】

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

商工会は物価高、円安で大きな影響を受けており、一番の課題である人口減少、経済縮小に対して、商工会としても、事業承継、事業効率化、DX化を経営支援で進めているところである。国、県、市といった行政の施策はどうしても限界があり、民間が頑張らないといけないと自覚している。KPI の責任が全て市にあるわけではないとも思っているが、地域社会の在り方を根本的に考えないと、女性が活躍する場がなく都心部に転出してしまっててしまう。施策も大事だが、地域社会の在り方について、女性を重要視したやり方をしないと将来の人口は増えないという共通の課題意識を持つことが大切だと思う。

所得についても、企業が少ないため、毎年同じような金額になっている。また、うきはは農業が多いが、農業は経費が多くて所得が上がりにくい上に、給料をもらっているのが男性だけということもある。地域社会の在り方を考えないと、底上げが難しいのではないかと思っている。

市や県、国に任せて、民間が無責任になるのはいけないので、商工会としても市と連携して取り組んでいるが、地域社会が変わるような施策を打つのは行政でないと難しいのではないかと思う。移住者を増やすにしても、外国人を増やすにしても、ものすごく抵抗がある地域なので、KPI の目標だけではなく、ベースである地域社会の在り方を変えていくようにしていただきたい。

【会長】

女性の問題を出していただいて、個人的にはとても嬉しい。この協議会が始まった時から会長をやっているが、時代の流れで、女性を登用するとポイント上がるといった背景があるのかなと思いながら引

き受けた記憶がある。ジェンダーの視点については、おそらく別の審議会等があって、そこで詳しく述べられているのだと思うが、ルネッサンス戦略推進協議会でももう少し踏み込んでも良いのではと思いながら資料を拝見していた。

他の自治体で男女共同参画の審議会などもやっており、DV やセクハラを無くすというのは当然のこととして出てきているが、そうではない次元で、豊岡市の事例を最近聞いた。豊岡市では、SDGs の 5 番目の課題であるジェンダーを市の施策の上に持ってきて、首長が率先して市政を行っている。また、世界の投資家は投資先企業の判断で、ジェンダーの取り組みを厳しく見るということも聞いた。豊岡市のある中小企業は、ジェンダー課題解決を社是としたことで、投資が非常に増えて、会社の発展につながったとのことであった。世界の投資家が、SDGs の取り組み、特にジェンダーに対して厳しい目を向けているのは事実なので、そういうところまで広く視野に入れれば、うきは市の課題と合わせてさらに良い案が出てくるのではと期待している。

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

資料 1 の「2-3 コミュニティバスや乗合タクシー、補助金を支出している民間バス路線の総利用者数」について、目標の 14,000 人には達成していないが、令和 3 年度から見れば徐々に利用者が増えてきている。情勢的には徐々に減っていく傾向にある。また、資料 2 の 6 ページ「①新交通システムの導入検討」について、IT や AI を活用したサービスの実装に向けた課題整理と導入に向けた取組は、地域公共交通計画の策定までは行ったとのことで C 評価となっているが、第 2 期があと 1 年ある中で、実際に IT や AI を活用したサービス提供が予定されていれば、さらにこの数字が伸びていくと思う。そもそも、まだサービスが導入されていない段階で利用者が増えていているのはなぜなのか気になっている。加えて、今後 IT や AI を活用したサービス提供を予定していれば、そちらについても教えていただきたい。

【事務局】

令和 6 年度は C 評価であったが、先月 26 日に A-I オンデマンドバスの実証運行を開始したので、令和 7 年度になればまた評価は変わるとと思う。少しずつ利用者が増えている理由としては、既存のバス路線の見直しや、西鉄バスが廃線になった路線があり、その代わりに乗合タクシーを運行した影響もあって、増えてきているのではないかと推測している。1 年後には目標の 14,000 人は間違なく達成できると思うので、前向きに進んでいきたいと考えている。

【会長】

A-I オンデマンドバスは素晴らしいアイデア。使う人がもっと増えると思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

依頼という形になるが、うきは市内に構える銀行は、ゆうちょ銀行を含めて 5 行があるので、ぜひ金融に関しても、銀行団としての活用方法を検討していただきたい。

例えば、先月生涯学習課と開催した金融教育セミナーでは、福岡銀行が講師を担当した。県が金融教

育を進める流れで、うきは市もそういった活動をしていくという話を聞きした。行政からすれば、1行だけということは難しいと思う。今年度、福岡銀行が銀行業界の幹事を務めているが、今後輪番で幹事行も変わる。銀行団としてできることもあると思うので、金融業界全体で関われるような方法をご検討いただけたらと思う。銀行なので、金融教育が市民の方も馴染みがあると思うが、銀行以外でもコンサルといったこともできるので、何か協力できそうなことがあればご相談いただければと思っている。

【会長】

金融教育が必要だと急に呼ばれるようになった。学校教育にもそれが入ってきている印象がある。私は金融教育を受けてこなかったので困ってばかりいる。金融教育をぜひ進めたいと思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

資料1の「3－3 中学3年生の自尊感情」について、目標の40%に対して、令和6年度が25.9%と、年々この数値が下がっており、子どもが減ってきてている中で、環境が整っていないというところに非常に危機感を感じている。

資料2の9ページ「③子供の生きる力の育成」の評価が全部Bとなっているが、体験学習、自然活動、中学生の部活動は厳しい状況になっていると思う。以前は、地域のお祭りやスポーツイベントなどを通じて、地域の魅力を感じ、それが自尊感情に繋がる部分もあったのではないかと思うが、今は地域の役割が欠けていて、それを小中学校に押し付けてしまっているような状況。小中学校の先生方も学校教育の中でいろいろな問題があるので、地域に頑張ってもらわないと厳しいと感じている。

【会長】

今後の計画を立てる中で今の意見は重要だと思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

学校教育の問題で、地域の子どもたちへの見守りが希薄になってきていることが以前から気になっていた。昔は婦人会があって、婦人会の子どもが誰かも分かったが、今は同じ集落でもどこの子どもか分からないような状態がとても多い。孫が小学校に通っていた時、毎朝散歩がてら通学に付いていき、子どもたちの行動や様子を気にかけるような見守りができたが、今は地域と子どもたちの関わり合いが欠けてきているのではないかと思う。子どもが育つということは、地域が育って、うきはも育っていかなければいけないので、子どもの教育というのはとても大切なことだと思っている。

【会長】

何かしら仕掛けを考えていかないと、自然発生的には無理だと思う。お祭りやスポーツなど、地域と子どもを繋いでいくいろいろなアイデアは出てくると思う。うきはは広いが、人口は減っているので、近くの子どもと言っても遠い。離れたところの子どもとどう繋がっていくのかは難しいところ。

（2）第3期うきは市総合戦略の策定について

事務局より資料4・5の説明。

【会長】

事務局より説明があった第3期うきは市総合戦略の内容について、何かご意見、ご質問はないか。

【委員】

資料5の14ページでKPIが「結婚新生活支援補助金対象世帯の累計出生数」となっていて、出生数を伸ばしたいのは分かるが、この世帯だけの責任でもなければ、産まない自由もあるので、男女平等の観点からも違和感がある。この世帯だけに限定せず、単なる出生数など、誰が対象か分からないようにした方が良いのではないか。

【事務局】

ここでの回答は差し控えるが、パブリックコメントもあるので、議会前までに改めて整理して進めたい。

【会長】

基本的なことになるが、第3期うきは市総合戦略を検討している審議会は別にあるということで良いか。本協議会は、市長の諮問を受けて回答を出すというものではないという認識で合っているか。うきは市に対して、どういう責任、スタンスを取ればいいのか改めて確認させていただきたい。

【事務局】

この総合戦略と別に、総合計画も策定しており、そちらについては市長から諮問を受けた審議委員が審査をして策定をしているが、今回の戦略については、諮問答申があるものではない。皆様の意見をいただきながら、我々の策定の一つとさせていただくことでご認識いただければと思う。

【会長】

諮問を受けて答申を出すわけではなく、協議会として意見をまとめて出すということで理解した。他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

基本方針3に、病弱児の家族に対する支援も入れていただきたい。病弱児を抱えた家族の困難として、兄弟への支援というのがうきは市ではこの中に載っていないので、入れていただきたい。

また、小児がん関係の支援をしているが、がん治療をすると男女問わず、不妊の問題が出てくるので、そこに対する助成を積極的にやっていただきたい。

【事務局】

病弱児を抱えた家庭への支援も必要と考えている。総合計画の中では、一時預かり保育の需要が高いので、子育て支援の取り組みの中で、病弱児を抱える家庭への支援についても検討したい。

【委員】

核家族や転勤族が増える中で、子どもが大変な病気になったとき、きょうだい児を誰が見るかという問題についてたくさん相談受けているので、そういったところへの対策もお願いしたい。同じ町内に家族がいればきょうだい児を見てもらえるが、そうではない場合、両親が遠くから来られても1か月が限度。

【会長】

親が病気の場合の子どもの問題というのもある。ヤングケアラーという言葉も定着してきたが、そういった困難を抱える子どもがいる家庭への支援をどういう風に行つていけるかということだと思う。
他にご意見、ご質問はあるか。

【大塚委員】

資料5の16ページ、「うきは子ども未来ラボ」の基本的方向の2つ目に「ICT教育環境の整備に加え、子どもの可能性を広げる教育を推進」とあり、「整備に加え」なので、そういったものを大いに活用することだと思うが、活用するだけではなく、ICTそのものが学べるような文言があっても良いかと思う。

また、基本的方向の3つ目に「未来に希望を持ち、自立した市民へ」とあるが、冒頭に話が出た金融教育に関連して、若い年齢からお金と政治について勉強し、自身の経済で地域を支えるということに加え、政治も身近にあるといった内容も一緒に入れていただけたら嬉しい。

最後に質問になるが、10ページの主な事業の中にある「同窓会開催支援」とはどういったものか。

【事務局】

同窓会開催支援については、実は第1期からある事業で、うきは市で育って外に出ていった人が地元で同窓会を開く場合に、金銭的な支援に加えて、学校等、場所のセッティングの支援も行っていた。うきはに戻ってきてはくれないかもしれないが、うきはへの愛着を持ち続けてもらいたいという意図で記載している事業である。

【委員】

これまであった事業ということで理解した。小中の同窓会をよく開催している。会議に参加しながら見落としていた状況であるが、そういったことも踏まえて、すぐに実施できる事業に関する情報が、細やかに届くようなアイデアはないかといつも思っている。化粧品販売の仕事の中で、うきは、久留米、朝倉などの近隣の情報はできる限り収集して、お客様に話すように努力しているが、なかなか情報が得られない。どんどん情報発信して、情報を取りに行きやすいようにしていただきたい。また、個人に対してだけではなく、消費者に近い企業を活用した情報発信も検討していただきたい。

【事務局】

我々の PR 不足があると思う。ターゲットが最初にあり、高齢者であれば防災無線、若年層には SNS を使うなど、いろいろなツールを考えながら PR していきたい。

先ほど、A I オンデマンドバスの話があったが、事業所の従業員さんから市民の方へ、この事業の説明をしていただくという話も出ている。民間の方にも手伝っていただきながら PR を進めていきたいと思う。

【会長】

同窓生というのはすごく頼りになるが、密接に会えるようになったのは、仕事が終わって高齢者になってからなので、うきはに移住してほしい世帯は忙しくて同窓会どころではない状況だと思う。ただ、いろいろな発信をしながら、そういったネットワークを作っていくのは効果的なことだと思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

人口ビジョンが 1,000 人ほど上方修正されているが、社人研の推計方法が変わった等、変更となった根拠について教えていただきたい。

また、戦略ということで KPI を設定しているが、フォローアップするような仕組みについても記載する予定か。

【事務局】

人口ビジョンについては、総合計画と併せて総合戦略の策定支援をしていただいている株式会社ぎょうせいの専門員に分析を依頼し、提示されたパターン案を協議した上で、目標として適切な数値を採用した形になる。

フォローアップについて疎いので、手法など後ほど教えていただきたい。

【委員】

次第の「今後のスケジュール」に書かれている、市民へのパブリックコメント募集は総合計画についてか。それとも総合戦略についてか。

【事務局】

総合計画と総合戦略、どちらも同じ日からパブリックコメントを始めさせていただく予定。

【委員】

次の行に「計画書案を議決」とあるが、戦略については同時期に行う予定か。

【事務局】

うきは市議会基本条例というものがあり、市の重要な施策で 5 年以上のものは議決対象となっているので、総合計画と総合戦略どちらも 3 月議会に上程することになっている。

【委員】

第2次うきは市総合計画のパンフレットと本編を参考資料としていただいている、将来像、キャッチコピーのようなものだと思うが、「うきはブランドを継ぐ しあわせ彩る うきは市」とある。今回の総合戦略にはこういったキャッチコピーはないのか。

【事務局】

総合計画と齟齬がない範囲で、人口減少や地方創生に関わるものに特化して、総合戦略を書かせていただいている。総合戦略としての将来像は設定していないが、全体として向こう10年間の将来像を総合計画の中で謳っている。

【委員】

ここからは意見になるが、キャッチコピーは非常に大事だと思っている。分かりやすくキャッチーなものをぜひお願いしたい。努力して情報取りに行くという話もあったが、努力して情報を取に行く人はそこまで多くないので、努力しなくとも目に触れるような発信をしていただきたい。

言葉の位置づけに関して、先ほど資料5の14ページの「結婚新生活支援補助金対象世帯の累計出生数」について、対象を明記するのはおかしい、産む産まないの自由があるという指摘があったが、この指摘は非常に重要だと思っている。ただの言葉だが、敏感な人はそういうことが目に留まる。ご指摘の通り、子どもを産む産まないという非常に個人的な問題について、「対象補助金もらった人は必ず子どもを産め」とも取られかねない言葉は不要で、削除すべきだと思う。このまま残したら、うきは市の見識が問われる。

同様に、言葉は明記されることで、人々に伝播していく。行政はあらゆる人たちを対象に、より生活が豊かになるように尽力されている大前提は分かっているが、病弱児支援も力を入れるといった内容を言葉として明記していく姿勢はとても大事だと思う。明記するかしないかで伝わり方は違うので、緊張感をもって臨んでいただきたい。

【会長】

他にご意見、ご質問はあるか。

【委員】

資料5の7ページ、主な事業「EC販路拡大プロジェクト」について、これまでECをやってきたが、あまり売れていない。商工会としては都市圏に販売したいので、「EC・都市圏販路拡大プロジェクト」に変えていただければと思う。

【事務局】

都市圏を含めて販路拡大を目指す方向でいるので、都市圏を入れるかどうかについて検討する。

【委員】

先ほどのキャッチコピーの話について、委員の意見に賛同である。総合戦略についてもぜひタイトルをつけていただきたい。

関連として、第4期への意見として聞いていただきたい。以前うきは市がブランド推進課を立ち上げたとき、素晴らしい組織を作られたと注目していた。資料2を拝見して、全部で99項目ある中の、43項目にブランド推進課が出てきており、行政の横ぐしを担っていて素晴らしいと思った。しかし、第3期の素案を見ると、残念なことに、うきはブランド戦略が地場産品の魅力創出にとどまっている印象を受けて、とてももったいないと思っている。個人の意見としては、うきはブランドをいかに市の各部局が連携して高めていくかという方向で戦略を作ると良いのではないかと思うので、検討をお願いしたい。

【事務局】

戦略にもタイトルをということで、今から新たに考えるのか、総合計画のタイトルを戦略にも使っていいものか等、内部で検討したい。

ブランド戦略が地場産品に留まっているとのご指摘について、我々としては産品だけでなく、人も含めてあらゆるものをブランド化しようという思いであるが、なかなか届いていない部門もあり、今のようなご指摘もあるので、広報と一緒にプロモーションを頑張っていきたい。

【会長】

本協議会が発足したのが10年ほど前であるが、国の提言に従って「産官学金労言」の全分野が入っており、すごい会議だと驚いた記憶がある。当時、国の機関の方はなかなか参加できないのではと思っていたが、毎回きちんと出席して、国の政策の視点から非常に貴重な意見を出していただき、ルネッサンス戦略推進協議会では広い視野で地方創生を考えることができた。本日もほとんどの委員に発言していただき、ただ報告を聞くだけではなく、いろんな意見を聞くことのできる実りの多い会になったと思う。

他にご意見、ご質問はあるか。

【副会長】

1点、説明になるが、今まで市の総合戦略は「うきは市ルネッサンス戦略」という名称で、ルネッサンスという言葉を入れていた。平成24年の豪雨災害からの復興を意図して付けていたが、復興事業も一定進展しており、市としては未来志向のフェーズに入ったことを反映させたいと考えている。そのため、ルネッサンスという単語は次の総合戦略には入れず、「うきは市の総合戦略」という形にしたいと考えているが、この場を借りて皆さんの意見をお聞きしたい。

【会長】

今後の会議の在り方に関する説明かと思います。「ルネッサンス」という言葉は今後使わない方針のことですが、委員の皆様よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

以上